

継続的な地域社会への貢献

私たちは人々が求める真の貢献を実現するために、その地域に密着し、交流を深めることで問題を共有し、その解決に努めます。

地域経済の活性化

新しいモールのオープンには地域に安定した雇用を創出し、税収や人口の増加にもつながります。専門店も全体の約3分の1は地域からの出店になるよう配慮するほか、多くの仕事が地元企業に発注されるなど、広範囲に効果を及ぼします。

公的サービスの拡充

地域インフラの一翼を担う商業施設として、銀行、郵便局、医療機関、自治体の行政サービスコーナーなど、公共性の高いサービスも広く導入しています。

期日前投票所を設置

2016年7月に実施された参議院議員通常選挙では、全国29のイオンモールに期日前投票所を設置し、選挙に参加しやすい環境のご提供に寄与しました。また、改正公職選挙法の施行を受けて、初めてイオンモール津田沼(千葉県)が投票日当日の投票所に指定されました。



モール内で成人式を実施

2017年1月、イオンモール京都桂川(京都府)のイオンシネマを会場として向日市の成人式を実施しました。休館している市民会館に代わって会場に選定されたもので、新成人の394名がご参加されました。またイオンモール日の出(東京都)でもイオンホールを会場として日の出町の成人式を毎年実施しており、2017年の成人式には138名が出席されました。



地域の美しい環境を未来へ

「クリーン&グリーン活動」の一環として、毎月11日のイオンデーには、専門店従業員のみならず、モール周辺の歩道や公園、植樹帯などの清掃活動を行っています。



海水浴場の清掃を実施

イオンモール富津(千葉県)では、過去30回以上にわたって夏の海水浴シーズンの前後に富津海岸海水浴場の清掃を実施しています。



地域の魅力を磨くモールの独自企画

当社が経営ビジョンのひとつに掲げる「究極のローカライズへの挑戦」を実現すべく、各モールの若手社員やフレックス社員(パートタイマー)が中心となって地域の魅力がもっと輝く企画づくりに取り組んだ「究極のローカライズ2016」。昨年度をさらに上回る197の応募の中から16企画を厳選して実施しました。

優秀賞 「究極のみかん対決～和歌山vs愛媛」イオンモール和歌山(和歌山県)/イオンモール今治新都市(愛媛県)

和歌山のみかんと愛媛のみかんの対決でお互いの地域を盛り上げよう。そんな前例のない企画が、有田市とJAおちいまばりの後援をいただいて実現しました。イベント当日は、両モールで先着1,000人のお客さまがみかんの味比べを楽しむとともに、ご当地キャラクターが会場を盛り上げ、和歌山では約1,500人、今治新都市では約1,100人のお客さまを集める盛況ぶりとなりました。どちらの地域もみかんには特別な思いがあ

るだけに開催前から話題となり、イベントの様子は多くのメディアで報じられました。ご協力をお願いした有田市とJAおちいまばりのみならず、さらにも良いPRができたことと評価していただきました。



お客さまからは「比べてみるとぜんぜん違う!」という感想が目立ちました。このイベントを通して地元のみかん、そして他県の産品にも興味を持っていただき、「選ぶ楽しさ」を感じていただきたいですね。

イオンモール和歌山
営業担当 北川 知子



食べ比べを通して両県の魅力を発信するのがイベントの趣旨でしたが、想定以上に「勝敗の結果はどうなんだ」という見方をされることが多かったです。経験をふまえて、さらに強い企画へ成長させていきたいです。

イオンモール今治新都市
営業マネージャー 伊東 昭



優秀賞 「広がる!岡崎バレーボールの輪」イオンモール岡崎(愛知県)

かねてより学校の部活動やママさんバレーを通して盛んだった岡崎のバレーボール文化をさらに盛り上げ、地域のみなさまの健康に貢献することを目的として企画しました。スポーツオーソリティの専属トレーナーによるママさんバレーボールチームへのサポートや、VチャレンジリーグI所属の女子チーム「デンソーエアリービーズ」の選手たちをモールに招待してファンミー

ティング、1日店長など、お客さまとふれあう応援企画を実施。さらに、10年間にわたって中断していたママさんバレーの新人戦を「フレッシューズ大会 復活記念イオンモール杯」として再開する予定です。



入社1年目で企画を立案しました。地域のみなさまが好きなこと、夢中になれることは何かを考えてテーマを見つけ、思い描いたとおりのイベントを予算内で実施するために、上司や先輩に相談しながら工夫を凝らしました。デンソーエアリービーズのみなさまからは、「想像以上に大き

なイベントで応援していただけて嬉しい」というお言葉をいただくことができました。

イオンモール岡崎
オペレーション担当 中本 楓弓



2016年度募金活動結果(全国のイオンモール合計)

■東北復興応援 空の駅建設応援募金①	2016年3月14日～2016年4月1日	3,997,132円
■ミャンマー学校建設支援募金	2016年4月2日～2016年4月14日	1,285,367円
■熊本地震緊急支援募金①	2016年4月15日～2016年4月24日	47,921,000円
■熊本地震緊急支援募金②	2016年4月25日～2016年5月31日	48,865,363円
■東北復興応援 空の駅建設応援募金②	2016年6月1日～2016年6月10日	780,329円
■24時間テレビ チャリティー募金	2016年6月11日～2016年9月4日	33,612,658円
■台風10号被害緊急支援(東北地方のみ)	2016年9月5日～2016年9月20日	527,460円
■北海道台風被害緊急支援(北海道のみ)	2016年9月8日～2016年9月25日	118,880円
■イタリヤ中部募金緊急支援(東北・北海道・九州を除く)	2016年9月7日～2016年10月2日	3,523,484円
■イオンセーフウォーターキャンペーン	2016年10月4日～2016年10月30日	2,670,503円
■鳥取県中部地震緊急支援	2016年10月24日～2016年11月20日	122,762円
■アジア障がい者支援募金	2016年11月5日～2016年12月4日	3,154,696円
■東北復興応援 空の駅建設応援募金③	2016年12月5日～2017年2月10日	3,566,637円
■糸魚川大火事緊急支援募金(新潟県のみ)	2016年12月24日～2017年1月9日	85,756円
■グラウンドを作るプロジェクト支援募金	2017年1月28日～2017年2月28日	379,361円
合計		150,611,388円

継続的な地域社会への貢献

私たちは人々が求める真の貢献を実現するために、その地域に密着し、交流を深めることで問題を共有し、その解決に努めます。

マイク アイオン1%クラブによる活動助成

アイオン1%クラブは地域のお客さまのご愛顧によって得られた利益を社会の発展に持続的に活かそうという理念のもとで1989年に設立され、規模の大小にかかわらずグループ企業が税引き前利益の1%を拠出して社会貢献活動を行っています。2015年には公益財団法人へ移行し、「次代を担う青少年の健全な育成」「諸外国との友好親善」「地域・社会の持続的発展」を柱として社会全体に貢献する活動を展開しています。

アイオングループ各社の中でも、アイオンモールの商業施設は直接

お客さまと接する「場」を持っているという点でNPOや行政の方々から注目をいただいております。公益に資する各モールの地域貢献活動については当財団が助成しています。東北や熊本の災害復興支援においても、アイオンモールがグループの旗振り役となって貢献していただくことを期待しています。

公益財団法人 アイオンワンパーセントクラブ
事務局長 本田 陽生氏



アイオン1%クラブによる助成で実施された地域貢献活動(一例)

つがる市馬市まつり

アイオンモールつがる柏(青森県)
2016年8月26日~28日

つがる市最大のまつり「馬市まつり」では、市民のみなさまとともにアイオンモールチームとして「馬ねぶた」のパレードに参加。夜にはモールの駐車場で「新田火まつり」が行われ、「馬ねぶた」に点火し、農耕馬の霊を弔いました。



おおむた大蛇山まつり

アイオンモール大牟田(福岡県)
2016年7月16日~24日



第55回を迎えた大蛇山まつりは、約40万人を集客する筑後地方屈指のイベントです。モールと港まつり会場を往復する無料シャトルバスを運行したほか、初めてアイオンモール大牟田チームとして「1万人の総踊り」に参加し、地域のみなさまと交流しました。

とこなめ焼・招き猫祭り

アイオンモール常滑(愛知県)
2016年9月17日~19日



日本六古窯のひとつ「常滑焼」と、常滑が生産量日本一と言われる「招き猫」の魅力やPRする第1回のイベントとしてモール館内8ヶ所で開催。体験や実演も交えて、3日間で10万人以上のお客さまが地元を代表する工芸の魅力にふれました。

新居浜太鼓祭り

アイオンモール新居浜(愛媛県)
2016年10月15日~18日



50台以上の豪華絢爛な太鼓台が市内を練り歩く「新居浜太鼓祭り」は四国三大祭りのひとつ。モール駐車場に川西地区の太鼓台が列を成して登場し、勇壮な揺き比べコンテストを行う「アイオンモール夜太鼓」を開催。来場者は5万人を超えました。

各モールの地域貢献活動(一例)

からあげフェスティバル アイオンモール三光(大分県) 2016年9月17日~18日

からあげの聖地と呼ばれる大分県中津市のアイオンモール三光で毎年開催している「からあげフェスティバル」。中津市・宇佐市だけでからあげ専門店が約60店舗もある独特の食文化を盛り上げようとアイオンモール三光が協力して立ち上げたイベントは、2011年にはからあげ供給量のギネス世界記録®を達成して話題になりました。第9回大会はアイオンモール三光の20周年記念として開催され、中津市・宇佐市などを中心に26店舗が一堂に集結し、2日間で約3万人のお客さまが味比べを楽しみました。



暑い時期に食品を扱うので衛生面の安全管理には気を配っています。せっかくの楽しいイベントも事故が起きると続けられなくなってしまいますので、消防とも入念な打ち合わせをし、消火器の配備なども徹底して開催しています。

アイオンモール三光
ゼネラルマネージャー
入船 幸



8歳から「からあげの聖地」中津市で育ち、親戚や友達が集まれば、お気に入りのお店でからあげを買っています。第1回からこのフェスティバルに携わり、「中津からあげ」が全国的なブランドになるうえでお役に立てればと毎年開催してきました。2017年は10回を迎えさらに盛り上げていきます。

アイオンモール三光
営業マネージャー
川野 妙美



木製玩具「ミエトイ」のワークショップ

アイオンモール東員(三重県)



本物の木の良さをお子さまに味わっていただく「木育」の一環として、三重県産材の木製玩具(ミエトイ)を集めたワークショップなどを開催。ミエトイの楽しさを存分に体感していただきました。

出雲市・稲佐の浜清掃活動

アイオンモール出雲(島根県)



出雲大社から西へ約1km、国譲り神話の舞台としても知られる稲佐の浜。海水浴シーズンが終わった2016年10月にモール従業員82名で清掃活動を行い、多くのゴミを集めることができました。

赤十字の活動体験イベント AEON SANO FESTAを開催

アイオンモール佐野新都市(栃木県)



2016年6月、日本赤十字社のご協力により、AED(自動体外式除細動器)の使用や災害時に役立つ便利グッズの作成などが体験できるイベントを開催。約700名のお客さまが参加しました。

専門店従業員を対象とした実践的な防災訓練の実施

アイオンモール プノンペン(カンボジア)

有事の際にお客さまと自身の安全を確保するために、実際に火を使った消火器の訓練大会や、日本式の訓練を受けた救急レスキュー/消防隊員との合同訓練を実施しています。



お客さま向けのレンタルサイクルを設置

アイオンモール北京豊台(中国)

お客さまに便利なサービスを提供するため、モールの西側にセルフレンタルサイクルのスポットを設置。身分証明書と交通系ICカードで自転車をレンタル利用していただいています。

